

# カトリック山形教会報

# かすみ

# 2

2014.2.16

カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590  
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



## 聖なる夜に5人が受洗

12月24日、主の降誕夜半ミサのなかで、写真左から多田知史さん、鎌田寛勝さん、関根光一さん、津島紗織さん、柴田利津子さんが洗礼の秘跡受け、信仰共同体の一員となりました。洗礼の秘跡を授かった5人から、喜びの言葉をいただきました。(掲載順不同)

### 半世紀ぶりに帰った教会

フェリペ・フランシスコ 関根光一

400年前、仙台藩主、伊達政宗家臣、支倉常長が藩命を受けて石巻の港から出港し数か月掛けてスペインに到着し洗礼を受けた。その洗礼名をいただきました。(フィリポ・フランシスコ・ハセクラ・ロクエモン)

命を受け、自らの信念のもと改宗してまでも全うしようとした姿に心うたれました。

私は55年前、山形教会の幼稚園(当時は双葉幼稚園)を卒園した一人です。それからは、教会から遠ざかっていましたが、御聖堂のキリスト受難の絵は子供心に焼き付いていました。

そして8年前、妻が洗礼を受け、私も教会に足を運ぶようになり聖書の勉強をし信仰心が芽生えました。

これから教会の皆様と共に信仰の道を歩んでいきますので、よろしく願っています。

### 見えざる手

フランチェスコ 鎌田寛勝

「あのね、今見えている太陽はね約九分前の太陽なんだよ」と子供の頃に親に教わった人も居れば、今日でも子供達に自信を持ってそのように教えている先生方も居る。朝の六時三十一分に太陽の光を浴びる時に太陽も同時にその見える場所に在ると、私は思っている。

私が今見ている自分の手の平あるいは、私の目の前に居る子供は何十億分の一秒前の手の平であり、子供であると思う人はよもや居ないと思う。夜空を見上げると無数の星々が輝いている。それらを観た時にそれらは同時に



洗礼式を終えて、本間神父、代父代母と一緒に記念撮影をする受洗されたみなさん。

存在しているのである。また百三十億光年前に誕生した銀河を発見したと新聞に写真が映っているのを見る時があるが、それを望遠鏡で観た時と同時刻に銀河は存在しているのであり過去の銀河ではない。この同時性に私は見えざる手を視るのである。それは今現在においてもこの宇宙を創造している神の存在の証でもある。

## 洗礼を受けて

ルカ 多田知史

なぜ、私が洗礼を受けたのかを洗礼式の直前でもまだわかっていませんでした。

私は二年ほど前の冬の朝、目が覚めたときに「教会にいかなくちゃ」と感じたのです。もちろん、そう感じるまでの理由はあるのでしょうけれど、その朝にそうなったのです。緊張しながら春に初めて教会に足を運んだとき、みなさんが穏やかに接してくださったのを今でも憶えています。もしそれがなかったら続かなかったと思います。とてもありがたいです。

洗礼を受け、ご聖体をいただき、その後の日、絵を描いていたら（私は画家です）身体と心が軽く感じられました。歯車のひとつひとつが噛み合っているというか、芯が一本すっと通っているような、そんな感じです。

きっと、このために教会に呼ばれたのです、と言いたいです。

これからも、イエスさまの御言葉を聴きながら歩いていきたいです。

## マザー・テレサの導き

マリア・ローザ 柴田利津子

主のご降誕ミサにて洗礼を授けていただき、みなさまに祝っていただきましたことに感謝いたします。

私が山形教会の中に入ったのは、我が子の洗礼に参列するためでした。私は以前より教会に入る価値もない人間であると思っていました。

クリスマスちかくなると教会の前の木にライトが灯り、その光に「神よ 私を導いてください。私にとって一番良い日に。一番良い状況で。私を主のお側によんで下さい。」と祈っていました。しかし、数年前より、その光は灯らなくなりました。今、思えば、それは合図だったのかもしれない。なぜなら、そのころから我が子が教会に通いはじめ、主への道をととのえて下さり、導いて下さったのですから。

教会の階段をあがり、中の戸は開かれていました。私の目にまっすぐに入ってきたのは十字架上のイエス様でした。

私はその場にひざまずき、心の底からわきあがる喜びと感謝を捧げたいと思いましたが、人々の目が気になり、緊張もあって一礼をするのみでした。

私が看護の道を歩むようになったのは、TVに映る福者マザー・テレサを見たときからでした。

マザー・テレサはよく

「あなたがたによく言うておく わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたことは わたしにしてくれ

たことなのである。」(マタイ25・40)と神は仰せになりました。と…。そして、病人や死を間近にした人々の世話を若いシスターと共にする姿に、小学生の私にはあまりにも衝撃的で、激しく心を動かされました。

また、マザーは「カルカッタまで来なくても、あなたがたの“周辺のカルカッタ”で働く人になって下さい。」とも話をされていました。小さかった私が何かしなくてはいけないと思うようになり、マザー・テレサのことを書かれた本を手に取りました。信徒の家族に生まれた私は、どう祈ってよいのか分からず、本に載っていたマザー・テレサを見ながら「マザー・テレサ、あなたが祈られている方を教えて下さい。あなたへの道を歩むことができるようとのえて下さい」と、何度となく心で呼びかけていました。ここからだと思えます。出会いがあって始まり、今につながっているのではと…。

昨年は幸運にも実際にカルカッタに行かれ、神父となられた片柳神父にお会いすることができました。お話をさせていただき、その時、片柳神父は私に「どうぞ よい旅を」とメッセージを下さいました。では、よい旅とはどんなことなのでしょう。

私は、今、おかれている状況で答えを探していこうと思っています。日々を見つめ、少しでも光となることができますように。マザー・テレサがよく唱えていたといわれるニューマン枢機卿の祈りを祈りながら…。すべてに感謝いたします。

## 信仰との出会い

パトリシア 津嶋紗織

初めて山形教会に来たのは、去年の5月ごろでした。大学一年生のとき幼稚園の向かいにある寮に住んでいましたが、その頃はこの教会があることにすら気付いていなかったのも、今こうして山形教会の一員となっていることがなんだか不思議に思えます。

私は父親を早くに亡くしましたが、それに関する諸々の出来事ですっかり疲れ果てていました。周りは時間が解決すると言いましたが、5年経ち、10年経ち、一向にそんな気配もなく、寧ろだんだん悪くなっていくようだったので、このままではいけないと思い教会に行くことを決めました。

まわりにクリスチアンの知り合いは皆無だったので正直、怪しいんじゃないかと、アブナイ人たちなんじゃないの?とか(すみません!)いろいろと迷いましたが、実際に来てみると全くそんなこともなく、とても良い雰囲気でした。

大げさかもしれませんが、通ううちになんだか生きる力が湧いてきた気がします。それから半年ほど経って、今回めでたく洗礼を受けることができました。

残りの人生の全てを神に感謝できますように。

## フォトグラフ



**墓地ミサのはずが 11月10日(日)**

本間神父がフィリピンに行かれ不在のため、成田神父による墓地ミサが行われる予定でしたが、あいにくの天気で急遽教会でのミサになりました。ミサ後は「いも煮」を囲んで談笑が続きました。



**Sr.楠瀬が異動の挨拶12月15日(日)**

山形で3年間活動されたSr.楠瀬が、12月31日をもって、仙台サポートセンターの職員として異動になり、この日、お別れの挨拶がありました。新任地での活躍を山形教会信者一同お祈りしています。



**結婚式 12月21日(土)**

山形教会の小笠原さんと土屋沙央里さんの結婚式が執り行われました。外は寒かったですが、聖堂内はアツアツでした。山あり、谷ありの人生。これからは2人の絆で乗りこえて行くことでしょう。



**チャリティーコンサート開催 1月12日(日)**

昨年の11月8日、かつて経験したことのない超大型台風がフィリピンを直撃し、多くの方が亡くなり、住む家を失い、食べ物にも不自由しています。山形にも多くのフィリピンの方がおられます。とくに新任教員には最も被害が大きかったレイテ島出身の信者の方々もおられます。また、その頃、山形教会の本間神父も修道会の集まりでフィリピンにいました。被害を逃れた本間神父は帰国後すぐに、フィリピン台風災害救援の募金活動と呼びかけ動き出しました。聖堂には「募金箱」が備われ、募金活動が始まりました。

1月12日、より多くの方から募金を募るため、「フィリピン台風災害救援コンサート」が山形教会で開催されました。演奏前にフィリピン台風の被害状況がスライドで映し出され、フィリピン出身の信者が涙に声をつまらせながら実情を伝え、改めて被害の大きさを見せつけられました。その後は、趣向に賛同し狭く引き受けてくださった、長井市に拠点を置くフォークグループ「影法師」による軽快な演奏と地元ならではのメッセージを込めた歌で、笑顔と手拍子が聖堂に広がりました。チャリティー募金のためにお集まりいただいた皆さまに感謝いたします。これからも募金活動を続けていきますので皆さまのご協力をお願いし、被災者の皆さんが一日も早く、ひとりでも多く、笑顔を取り戻せるよう、祈りを捧げていきたいと思っております。



## 2013年・教会の仲間たちのクリスマス会 ～お互いを気にかける仲間たち!～

12月15日待降節第3喜びの主日後、幼稚園たんぽぽ組で、教会の仲間たち(日曜学校)のクリスマス会が行われました。

教会の仲間たちという形で2013年3月から新たにスタートし、毎月一回集ってきた仲間たちは、この日中学生2名、小学生8名、4歳児1名の計11名集まりました。リーダー達4名、お母さんやおばあちゃんが参加、お父さんの飛び入りなどもあり、一足早いクリスマスを祝ったのです。サンタ帽をかぶった子ども達やほとんど奈良のセント君のようなトナカイの角をつけたリーダーなど、完全クリスマスバージョンでにぎやかに開幕!

今回のクリスマス会は、子ども達が内容を考え、ポスターも作りました。子ども達は頼もしいのです。クリスマス交換用のプレゼントの金額も200円にするか300円にするかで慎重な討論の末200円で決着。ゲームも「私に任せて!」という積極性。本当に子ども達はスゴイ!のです。

「これからクリスマス会を始めます。」という厳かな開会の言葉でクリスマス会がスタートしました。第一部は「クリスマス礼拝」。クラスに飾られた馬小屋を眺めながら、一人ずつろうそくを灯し、ギターに合わせて歌うは「しずけき」。聖書の言葉を聞き、クリスマスの意味を考えながら幼子イエスのご像を一人ずつ手に取り心の中で感謝を思い起こし、次の人に手渡します。3人の子ども達が捧げた自分の祈りは、心の願いが込められたまっすぐな祈りでした。子

も達の祈りはしみる!のです。

第二部では、一部とうって変わってワイワイ、ケーキの飾りつけをし、準備していただいたおいしいお料理をいただき、満足したところでゲーム。そしてプレゼント交換をしてあつという間に2時間が経過し、2013年クリスマス会を終えました。

教会の仲間たちでは、ゆるやかに毎月テーマを決め、学校では知る機会のない聖書を一緒に読んで考えていますが、子ども達の新鮮な感じ取り方に教えられます。「なんで、一匹の羊は逃げたのか?」「ご聖体の勉強はするのに兄弟げんかはしてしまふ。」など疑問がいろいろ出てきて、そこに意見が重なっていきます。「教え」は大切ですが、一緒に考えること、子ども達一人ひとりの思いが受け止められ、一緒に歩むことの大切さを感じます。この時間を通してイエス様と共にあることの喜びや安心感が子ども達の中に広がっていくことがリーダー達の願いです。

聖霊は子ども達を通して教会に語ります。教会の仲間たちに出会えたことに感謝!新しい仲間大歓迎です。互いに気にかけて、たまにけんかもする楽しい仲間が待っています。

最後に。フルーツバスケットで「みかんより、リンゴが好きの人!」と言った時、子どもは誰も動きませんでした。リンゴよりみかんが好きの子多いなんて津軽生まれの私には考えつきません。みんな、それホント? (記シスター木田まゆみ)